IDEX

ニュースリリース

2025年11月18日
株式会社新出光

EVスクーターのシェアリングサービス「ラクすく」が地域の移動格差を緩和
新出光と九州大学・福岡大学ら3大学による共同研究結果を発表

株式会社新出光(本社：福岡市博多区上呉服町 代表取締役社長兼グループCEO：出光泰典)は、「EVスクーターのシェアリングサービス事業『ラクすく』」において、2024年8月1日(木)より九州大学と福岡大学、高麗大学との共同研究を開始し、この度「Journal of Transport Geography」（TOP４%レベルのジャーナル）に研究結果の論文が掲載されました。本共同研究では、「ラクすく」の乗車データと地理情報データを組み合わせて数理的に分析を行い、『EVスクーターのシェアリングサービスが利用者のアクセス改善に資する効果の検証』『アクセス向上効果の地域分布の可視化』をテーマとして、持続可能な交通社会の実現に直接つながるかについて研究を実施しました。

ラクすく EV SCOOTER SHARE × 九州大学 福岡大學 KOREA UNIVERSITY

共同研究の背景について

近年、公共交通が十分に整備されていない地域では、移動の不便さが社会的・経済的不平等を拡大させる要因となっています。本共同研究は、こうした「交通の公平性（transport equity）」の観点から、EVスクーターのシェアリングサービスがどのように移動アクセスを改善するかを明らかにすることを目的としました。

共同研究の内容と成果について

本共同研究では、EVスクーターのシェアリングサービス「ラクすく」の2022～2024年の走行データ約97,000件を九州大学、福岡大学、高麗大学の研究チームに提供し、分析を実施しました。

その結果、公共交通の選択肢が限られるエリア（例：春日市、糟屋郡など）ほど、EVスクーターがバスや鉄道と比べて移動時間・移動距離を短縮し、駅や中心市街地へのアクセスを改善することが明らかになりました。一方で、時間課金制により、長距離利用時の費用負担が高くなる傾向も確認されました。

これらの成果は、EVスクーターが地域の交通格差を補う有効な手段であることを示すとともに、料金補助やポート配置の最適化などの政策的支援によって、より公平で持続可能な都市交通の実現が可能であることを示唆しています。

また、これらの成果をもとに「ラクすく」のポートをどこに置けば需要があるかの予測シュミレーションを算出し、需要予測マップを作成。福岡市を中心にポート設置をしていましたが、現在は需要予測マップをもとに大野城市や春日市へのポート設置をおこなっています。福岡市では駅から1㎞以上離れたバス路線しかない郊外エリアへの拡大など、今後も、これらの情報をもとにポート戦略を実施していき、交通格差を無くしていきます。

IDEX

ニュースリリース

2025年11月18日
株式会社新出光

研究パートナー

俞　善彬（ユ　ソンビン）	九州大学大学院工学研究院　准教授 専門：交通計画、交通工学、テクノロジーアセスメント、環境影響評価
熊谷　惇也（くまがい　じゅんや）	福岡大学経済学部　講師 専門：交通計画、交通工学、ウェルビーイング
Sung Hoo Kim（キム　ソンフ）	高麗大学 工科大学 建築社会環境工学部 教授 専門：交通計画、交通需要モデリング、モビリティデータ分析、離散選択モデル

論文情報について

掲載誌：Journal of Transport Geography
タイトル：Shared e-mopeds and equity implications: Insights from trip-level data in Fukuoka, Japan
著者名：Sunbin Yoo, Junya Kumagai, Sung Hoo Kim, Shunsuke Managi
DOI：https://doi.org/10.1016/j.jtrangeo.2025.104445

EVスクーターのシェアリングサービス事業「ラクすく」について

環境負荷低減を目指すEVスクーターを1分単位で借りられて、専用ポートでの乗り捨てが可能な、**新しいモビリティシェアリングサービス**です。

現在、福岡市内で車両440台、ポート220箇所で運営を行っており、地域の移動課題を解決する一つのモビリティシェアサービスとして今後も展開していきます。

「ラクすく」サービスサイト：https://idex-rakusuku.jp/

当リリースに関するお問合せ先

担当部署　MFI推進室　担当 山口　電話：080-5801-8273　メール：h-yamaguchi@idex.co.jp
株式会社新出光 広報担当 久良木・笠茂　電話：092-291-4134